

「世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリー物語は何度も書き替えられなければならないでしょう。」



「ロータリーがその適正な運命を理解するとして、ロータリーは必ず進歩しなければなりません。時には革命が起こる必要があります。」
これは、ポール・ハリスが残した有名な言葉です。この言葉を例に出して、ロータリーは変わらなければならないことを力説する人も多いようですが、ロータリーにおいて、「変えなければならないもの」と「変えてはならないもの」をはっきり分類しておく必要があります。

ボランティア活動を優先するあまり、例会が軽視されることは、ロータリーの魅力をそぐ大きな原因となります。毎週1回の例会は会員相互が職業上の発想の交換を通じて親睦を深めると同時に奉仕の哲学を研鑽する生涯学習の場でもあります。

21世紀の半ばごろには世界はどうなっているのでしょうか。国連の人口予測によれば2050年の人口は95億4000万人、その内発展・開発途上国82億9000万人、先進国人口は12億5000万人です。現在の先進国人口は11億5000万人といわれていますから、発展途上国における人口爆発、先進国における少子化が極端に進むものと考えられます。その結果発展途上国から先進国の大都市への大量の民族移動がおこなわれることが予測されます。調査機関の予測によると、大都市への人口集中は全人口の3分の2に当たると言われています。現在、人口の2分の1が都市に集まっていると言われていますから、その集中度が倍増することを意味します。



人々が他人のために働くことによって自分の利益を得て行くという心の発展と開放を目指すことを意味します。まさにロータリーのService above selfの理念であり、シェルドンが述べたように、靴屋は靴を売って儲けるのではなく、店に来る客のために靴という商品を提供するという考え方で、超民主主義とは、市場原理主義の限界を超えた、人の善意で世界が運営される、国境のない世界平和主義という理想モデルの一つなのです。そしてロータリーは超民主主義を目指して100年有余の活動を続けてきたのです。

He profits most who serves bestとService above selfの理念によって、トランス・ヒューマンとして我々の住む地球を次の世代に引き継ぐことが、近未来におけるロータリアンの責務ではないでしょうか。

「ロータリー研修資料」として第2680地区のバスターガバナー田中 毅様のスライド「ロータリーの奉仕理念の原点と未来展望」より

 ニコニコBOX

ガバナー補佐 安井 克一様
" 幹事 山田 様
お世話になり ありがとうございます。

児山守治幹事
関東も梅雨入りの様ですね！
ここで一句
父の日に 川鯉飛んで 母の元
注訳・両親が天国で楽しく くらして
いる様子の 一句です。

家田真人会員
誕生日ありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いたします。

国際ロータリー第2790地区第12分区
松戸北ロータリークラブ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 国際ロータリー・テーマ

四つのテスト

- 言行はこれに照らしてから
- 1・真実かどうか
 - 2・みんなに公平か
 - 3・好意と友情を深めるか
 - 4・みんなのためになるかどうか

第1921回 例会 (第 46 週) 2012年 6月12日(火)



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌
・広報委員会》

委員長：伊師 剛迪 副委員長：大川 隆永
委員：平田 洋一 委員：高崎 卓哉

社会奉仕基金
3,519円

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー
第2790地区ガバナー 山田修平
第12分区ガバナー補佐 安井克一
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗
松戸北ロータリークラブ幹事 児山守治

例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ポウル1F
事務所 - 松戸市根木内249-7 榊山安内
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

会長挨拶：鈴木悦朗

皆さんこんにちは。

今日は第12分区ガバナー補佐と安井ガバナー補佐、山田地区幹事にご来臨いただきました。後ほどご挨拶を賜りたいと思います。

さて、昨日は地元の小金中学校の科学部がロボットの世界大会に日本代表として選ばれ、渡航費用につき、私どもロータリークラブ5クラブや7つのライオンズクラブ、マブチモーター、マツモトキヨシ、新松戸の商店会、PTA等地域の皆さんの支援を受け、18日にメキシコに出発する前の壮行会でした。

壮行会にお招きいただき、松戸中央ロータリークラブの交換留学生だった宇宙飛行士の山崎直子さん、衆議院議員の齋藤健さんのメッセージが読み上げられ、そしてご高齢のロータリークラブの元ガバナーの土屋亮平さんが子どもたちのために書いた永六輔さんの詩を額装してプレゼント。校長先生が読み上げ、生徒たちが静かに聞けなかな感動的なシーンでした。

- ・人が生きようとすることは
- ・誰かに借りをつくること
- ・その借りを返していくこと
- ・誰かにしてもらったように
- ・誰かにしてあげること
- ・人が生きるという事は
- ・誰かと手を繋ぐこと
- ・その手のぬくもりを忘れないでいくこと
- ・巡り会い愛し合い
- ・そして別れたあとに悔やまないように
- ・今日明日を生きよう
- ・人はひとりでは生きていけない
- ・人はひとりで歩んでいけない

心をこめると伝わりますね。最終調整をして日本の未来のために、世界でもがんばってほしいものです。

今日は、卓話ではなくロータリーとは何かをグループセッションで語り合う例会にしようかと思いましたが、まずロータリーの哲学や歴史について共通理解をする必要性を感じました。

私の所属する源流の会に「ロータリー研修資料」として、第2680地区のバスターガバナー田中 毅さんのスライド「ロータリーの奉仕理念の原点と未来展望」というわかりやすい資料がありましたので、後ほどスライドにてご披露させていただきます。今日もどうぞよろしくお願いいたします。

幹事報告：児山守治

1. 例会変更のお知らせ

・松戸中央ロータリークラブ
6月21日(木) 夜間移動例会
点鐘 18:00
場所 兆福房 047-309-0029

・松戸西ロータリークラブ
6月20日(水) 親睦旅行
場所 下田蓮台寺温泉
6月27日(水) 夜間例会
点鐘 18:30
場所 松葉館

・柏東ロータリークラブ
6月21日(木)
6月24日・25日に変更します
点鐘 18:00
場所 仙台 秋保温泉

2. 赤十字活動資金への協力をお願い
3. 松戸市健康福祉センター
6.26ヤング街頭キャンペーン
6月23日(土) 実施

「ロータリーの奉仕理念の原点と未来展望」

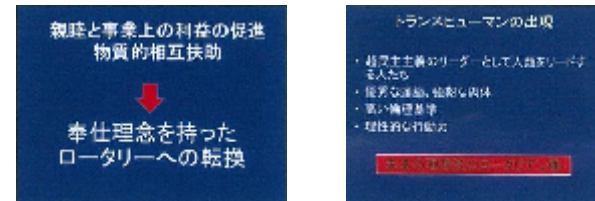
今、世界中の奉仕クラブは大きな危機を迎えています。組織として存続するためのサバイバルを賭けていると言っても過言ではありません。日本のロータリークラブもその例にもれず、衰退の一途を辿っており、実は2000年からこの10年間で50のクラブが消失しています。なぜこのような衰退が起きているのかを謙虚に反省して、それを阻止するためには、ロータリー運動が飛躍的に発展した創立当初の奉仕理念の原点を探って、その原点に回帰しようとする努力が必要ではないでしょうか。

特にクラブに長く在籍していたベテランの会員が退会していくのは、ロータリーに決別せざるを得ない大きな潜在的な原因が潜んでいることを意味しているのです。ロータリーのメリットが物質的なものだけではないことは、当初は事業の発展を会員同士の物質的相互扶助によって図っていたものが、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した奉仕理念に転換したことで、その後のロータリーが大きな発展をとげたことからも明らかです。

シェルドンの奉仕理念は経営学に基づいた職業奉仕理念そのものであって、そこには社会奉仕の考えは含まれていませんでした。社会奉仕の考えが生まれたのは1927年以降のことですから、原点復帰とはすなわちそれ以前の職業奉仕理念に戻って考えることを意味します。すなわち現在奉仕活動の主流となっている社会奉仕活動は、ロータリー本来の活動とは別のものであって、現在および将来のロータリー活動に必要なものとして本来の職業奉仕活動に付け加えられたものと考えべきでしょう。そのように割り切って考えずに、ロータリーをボランティア活動をするNPOだと考えるところに、ロータリーに対する不満の原因が起ころうに思えてなりません。

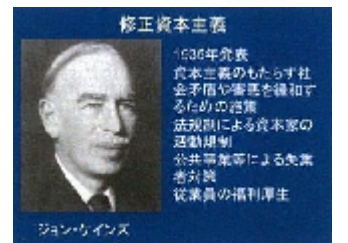
ロータリーの奉仕理念はすべてシェルドンの奉仕理念に基づくものです。

東洋の発想と似ている部分がある影響からか、仏教や儒教のような東洋思想を引き合いにして奉仕を語る人がいますが、たとえ似ている側面はあったとしても、その本質はシェルドンの奉仕理念とは根本的に違うものであることを強調しておきたいと思えます。



田中毅氏はガバナー終了後、趣味としてシェルドンの研究を続けてきました。ロータリーが他の奉仕クラブと根本的に違う点は職業奉仕理念であり、そのためにはロータリーに職業奉仕の理念を導入したシェルドンの考え方を知る必要があると考えたからです。日本ではシェルドンの著書に巡り合う機会は皆無に等しく、僅かに1921年の国際大会で講演された「ロータリー哲学」のみしか公開されていませんでした。田中氏はRI本部の資料室、インターネットによる検索、果てはアメリカの古本市にまで出入りして合計40数冊のシェルドンの文献を入手して、それらを徹底的に解析しました。

ジョン・ケインズが、1935年に発行された著書の中で、資本主義のもたらす貧困、失業、恐慌などの社会矛盾や害悪は、資本主義制度そのものを変えなくても、ニューディール政策やマクロ政策の展開、政府による公共投資などによって企業家のマインドを改善することで、緩和し、克服できると述べています。その考え方を修正資本主義と呼んでいます。ケインズは1901年にケンブリッジ大学を卒業して、この著書を書いたのは世界大恐慌後の1935年ですから、シェルドンはこの考え方を30年も先取りしていたことは驚異的なことです。



1929年10月におこった世界大恐慌を契機にして、政治・経済的な大きな変化が起きました。世界大恐慌の時期に、ロータリアンがなした大きな業績の一つに、四つのテストの制定があります。ハーバート・テラーは、折からの経済恐慌の煽りを受けて、40万ドルの負債を抱えて、倒産に瀕していたクラブ・アルミニウム社再建するために考えたスローガンです。

ハーバート・テラーが1939-1940年にクラブの会長になり、更に、国際ロータリーの会長を歴任した際、[四つのテスト]があまりにも素晴らしいので、全ロータリアンの職業奉仕の指針にしたいという声があがり、彼がRI会長に就任した1954年に、その著作権がロータリーに寄付され、今日に至っています。



ロータリーの奉仕哲学「超私の奉仕」Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。